

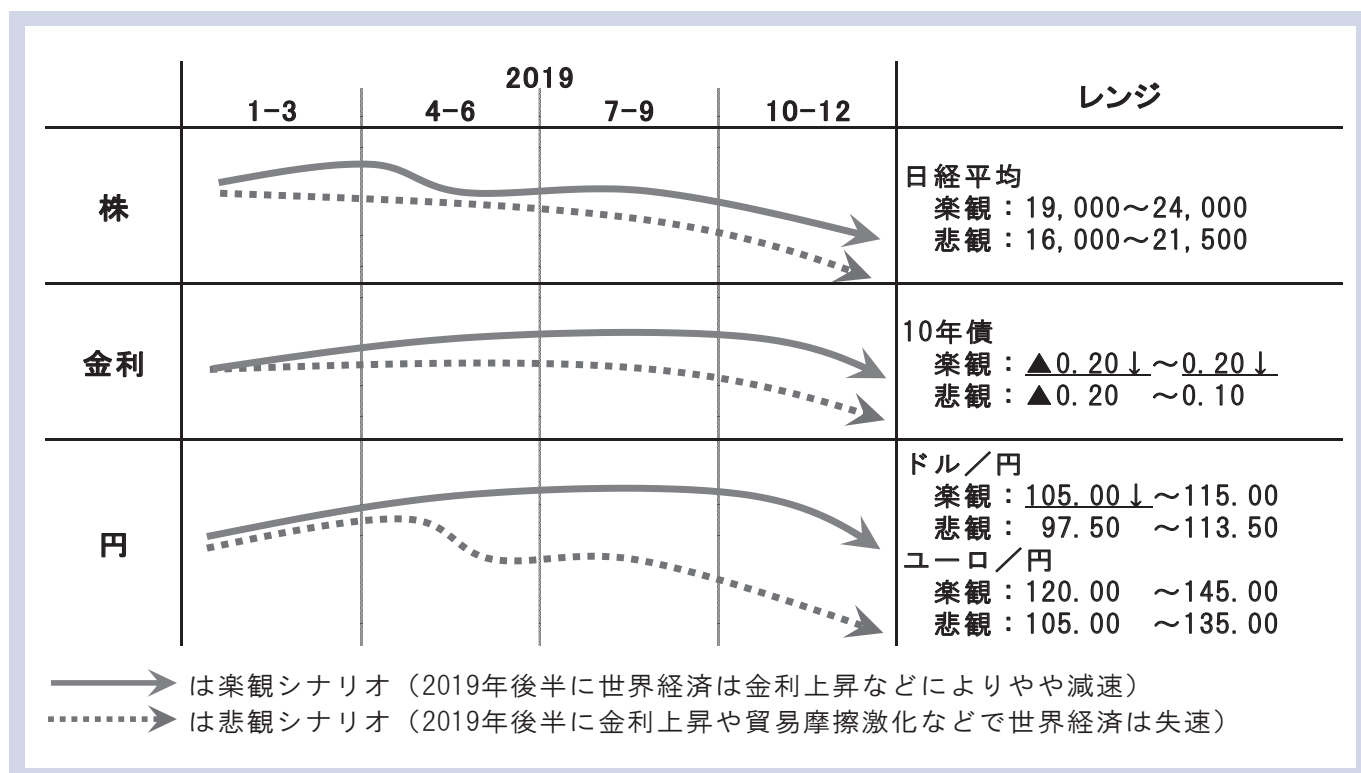
# 各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

(2月1日時点)

## I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	2012年12月に始まった景気拡張局面は19年1月で74カ月目を迎え、戦後最長を更新した模様。もっとも、海外経済の減速に伴って輸出に頭打ち感がみられており、景気の回復ペースは鈍化している。仮に今後、貿易戦争等を背景に海外経済が一段と鈍化すれば、輸出の悪化を通じて国内景気も下振れるリスクがある。
② 米国	ねじれ議会になったことで政府機関が閉鎖されるなど政策の不透明感が高まっているが、前半は雇用・所得、資産残高の増加、減税による個人消費の押し上げを背景に堅調さを維持しよう。米中貿易戦争は引き続きリスク要因だが、堅調な景気拡大、労働市場の逼迫が続く中、FRBは19年に1回の利上げを実施すると予想される。
③ 欧州	米中貿易戦争の余波やブレグジット協議の不透明感などが欧州景気に影を落としている。イタリアがマイナス成長に転落し、牽引役のドイツでも減速感が強まっている。年明け以降、企業の景況判断が一段と冷え込んでいる。雇用・所得環境の改善や財政緊縮の見直しが景気の下支え要因となるが、当面は緩慢な成長にとどまろう。
④ アジア・新興国	アジア・新興国経済では、世界景気の頭打ち感が外需を通じて景気の重石になっている。年明け以降の金融市場には変化の兆しもあるが、米中貿易戦争は中国への依存度が高いアジア・新興国にも影響を与えるため、今後の行方には引き続き要注意である。他方、中国は景気下支え策に動いており、アジア新興国にプラスの効果が期待される。

## II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注) 記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません  
 レンジについては、前月号から変更した値に下線を引いております。(上方修正: ↑ 下方修正: ↓)